東京医科大学
中期計画　2026-2030

東京医科大学　GOALs for 2030



学校法人 東京医科大学
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY FOUNDATION

学びと医療の未来に応える使命の実現へ



理事長
林 由起子

東京医科大学は1916 年の創立以来100 余年にわたり、「自主自学」の建学の精神のもと、「正義・友愛・奉仕」の校是を体現しながら、医療人の育成と社会への貢献に努めてまいりました。また、医科大学として教育・研究・診療の使命を果たすべく、地域社会との連携を深め、時代の変化に柔軟に対応してきました。

いま、我が国は急激な少子高齢化や社会構造の変化に加え、働き方改革や医療を取り巻く厳しい環境など、社会全体で解決に取り組むべき課題が山積する時代を迎えています。このような社会情勢を鑑み、本学は「患者とともに歩む医療人を育てる」というミッションのもと、未来を見据えた中期計画（2026 年度～2030 年度）を策定いたしました。

本計画では、明確性・統合性・定量性を重視し、教育・研究・診療・管理運営の各領域における目標の達成状況を可視化することで、大学全体の持続的な成長と社会的使命の実現に向けた着実な歩みを図ってまいります。

本計画を、東京医科大学の建学の精神と校是を未来へつなぐ羅針盤とし、教職員・学生・卒業生・地域社会の皆様とともに、より良い医療と教育の実現に寄与することを心より願っております。

今後とも、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年４月吉日

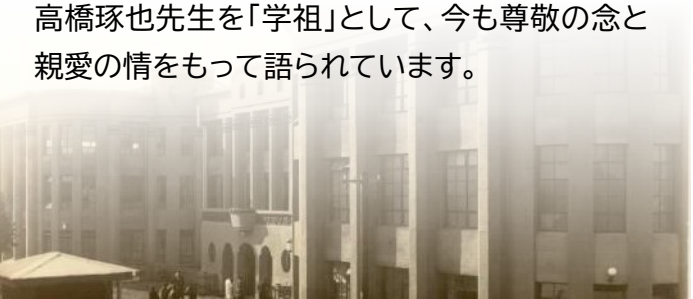
東京医科大学設立の経緯



今から110年前の大正5年(1916年)5月、日本医学専門学校(現　日本医科大学)の学生は学校側と対立し、約450名が同盟退学しました。彼らは理想とする学問の場を自分たちの手で実現させようと新校設立運動を開始し、幾多の困難を乗り越え、同年9月、東京物理学校(現　東京理科大学)の教室を借りて、本学の前身である東京医学講習所の設立を果たしました。

大正7年(1918年)には、長く官界にあった高橋琢也先生が全私財を投じ、全国を奔走して佐藤進氏、森林太郎(鴎外)氏、原敬氏、犬養毅氏、高橋是清氏、大隈重信氏、渋沢栄一氏など医学界、政界、財界の有志から多大な支援を受け、東京医学専門学校が設立されました。昭和21年(1946年)、東京医科大学に昇格し、現在に至っています。

本学では、学校の設立と運営に心血を注いだ高橋琢也先生を「学祖」として、今も尊敬の念と親愛の情をもって語られています。



建学の精神、校是そしてミッション

＜人としての生き方、矜持＞

建学の精神

自主自学

Self-Reliance and Self-Study

自主自学とは、自ら学び、考え、自らの責任で決断し行動することです。



＜人や社会との関わり方＞

校　是

正義・友愛・奉仕

Justice, Friendship, and Service

正義とは、法令や倫理規範を順守し、常に正しい意思で最高の医療の実現を目指すことです。

友愛とは、優しさと思いやりの心を持ち、常に相手の立場を理解し、助け合うことです。

奉仕とは、自ら進んで社会へ尽くし、人類の健康と福祉に貢献することです。

ミッション

患者とともに歩む医療人を育てる

Fostering excellence in medical professionals as partners in health

よりよい未来に向けて

医学・看護学と医療の発展に尽力し
地域や世界の健康と福祉の向上に貢献する

患者とともに歩む医療人とは、

1.思いやりの心をもって患者の人生に寄り添える医療人
2.高い倫理観を持ち、たゆまぬ自己研鑽により最善の医療を提供できる医療人
3.患者にやさしい医療の実現のための研究・活動を通して明日の医療を拓く医療人

東京医科大学 GOALs for 2030

社会課題

✓ 新たな医療人材の育成

- 医療人材の地域・診療科偏在は、少子高齢化等により今後更なる加速が懸念。
- 地域の医療機関等と連携しつつ、総合的な診療能力を有する医療人材の育成が求められる。

2040年問題への対応

✓ 医療ニーズの多様化

- 人生100年時代では、病気治療に加え、QOLの向上や健康寿命の長期化といった医療ニーズの多様化が進む。
- これにより、一層の医療の質と安全の向上や、地域社会との密な連携が求められる。

✓ 質向上と公益性への大学教育の転換

- 学生の学習成果を可視化し、教育課程の継続的改善を図ることで、学位の質を保証する体制を構築することが求められる。
- 地域医療圏構想、地域医療プラットフォームでの総合的診療能力の医学教育に貢献することが求められる。

✓ 研究力強化の必要性

- 医療・生命科学分野の国際競争激化する中、日本の相対的な国際競争力は低下傾向。
- 分野横断的な連携による研究と社会実装、及びそれを担う研究人材の育成が求められる。

建学の精神

自主自学 Self-Reliance and Self-Study

自主自学とは、自ら学び、考え、自らの責任で決断し行動することです。



校是

創立100年を支えた二つの精神

正義・友愛・奉仕 Justice, Friendship, and Service

正義とは、法令や倫理規範を順守し、常に正しい意思で最高の医療の実現を目指すことです。
友愛とは、優しさと思いやりの心を持ち、常に相手の立場を理解し、助け合うことです。
奉仕とは、自ら進んで社会へ尽くし、人類の健康と福祉に貢献することです。

ミッション

患者とともに歩む医療人を育てる

Fostering excellence in medical professionals as partners in health

よりよい未来に向けて

医学・看護学と医療の発展に尽力し地域や世界の健康と福祉の向上に貢献する

次なる100年への礎

患者とともに歩む医療人とは、

1. 思いやりの心をもって患者の人生に寄り添える医療人
2. 高い倫理観を持ち、たゆまぬ自己研鑽により最善の医療を提供できる医療人
3. 患者にやさしい医療の実現のための研究・活動を通して明日の医療を拓く医療人

2030年の到達点

教育GOAL

プロフェッショナリズムと協働力、探求心と問題解決力、自ら学ぶ力を修得する学修者主体の教育を実践

研究GOAL

分野横断的研究と次世代人材育成を推進し、未来の医療を拓く革新的な研究成果の創出と社会への還元

診療GOAL

高い倫理観と先進的な医療技術および患者安全に基づく医療の実現

管理運営GOAL

ガバナンス体制と財務基盤のさらなる強化と社会の変化に柔軟に対応できる組織の確立

戦略目標(KGI) 2026 – 2030

- 多様性と人間性を尊重した**全人的理解**、職責を自覚した**プロフェッショナリズム、多職種連携能力**を修得
- **科学的探求心**をもって、医学・看護学の問題を発見する能力を修得
- 学修成果を適切に把握、評価し、学びの過程を振り返ることができる体制により「**学生主体の教育**」を実施
- 教育カリキュラムを定量的、定期的に点検評価を行う体制により「**教育課程の実効的な改善・向上**」を実施

- 研究を支援する組織の再編、研究設備の整備を行い、**成果につながる研究活動**を行う環境を構築
- 外部研究機関との連携体制と、研究成果を外部に発信する体制を再編し、**分野横断的な研究**を推進
- 若手研究者、女性研究者を支援する体制を構築し、**厚みのある次世代の高度人材**を育成
- 大学の**国際化に向けて研究活動を支援**する体制を整備

- **医療の質と患者安全の向上**を図るため、診療体制・安全管理体制を継続的に強化
- 医療の質の維持と経営効率の向上による、**持続可能な病院運営**
- **先進医療を推進**し、大学病院としての専門性を高める体制を整備
- **地域医療機関からの紹介体制を強化・後方支援体制を整備**し、医療提供体制を充実

- 法人および大学の運営に必要な組織体制を整備し、**適切な人材を配置**した上で、機能する体制を確立
- **中・長期の財政計画を策定**し、安定した教育研究活動の財政基盤を確立
- 社会との連携を深め、**地域や社会の課題解決**に貢献
- 全学的な観点から統括的に検討・策定された**各施設の施設整備計画を着実に実施**

教育GOAL　プロフェッショナリズムと協働力、探求心と問題解決力、自ら学ぶ力を修得する学修者主体の教育を実践

KGI (1)　学生が多様性と人間性を尊重した全人的理解、職責を自覚したプロフェッショナリズム、多職種連携能力を卒業時に修得

医学科

主要KPI

CC EPOC 態度領域平均
90点
2024年度 77.3点

臨床研修開始時 態度領域評価
5.5点
2023年度 5.33点

主要施策

- 態度教育と多職種連携教育を体系的に設定し実施

KGI (2)　学生が卒業時にプライマリケアの総合的な臨床能力の基盤となる体系的な知識、問題解決能力および臨床技能を修得

医学科

主要KPI

国家試験合格率（医師）
98%
2024年度 96.2%

CBT 平均点
550点
2024年度 514点

臨床実習後 OSCE平均値
90点
2024年度 73.6点

主要施策

- 臨床医学を理解するための基礎医学の知見と手法の教育を体系的に設定し実施
- 次の条件を満たす臨床医学・技能教育を体系的に設定し実施：①卒業後に適切な医療的責務を果たせるための連続性、②早期から患者と接する機会の提供、③健康増進・予防医学の体験および将来社会において必要となることへの対応、④重要な診療科での実習の保証、⑤臨床技能の修得

KGI (3)　体系的、統合的な教育課程を通して、学生が科学的探求心をもって、医学・医療の問題を発見する能力を卒業時に修得

医学科

主要KPI

自主研究とリサーチ・コースでの学会発表数

主要施策

- 科学・技術と臨床の進歩に対応した教育を実施
  例：「課題研究」、「基礎医学実習」と「グループ別自主研究」、さらに「自由な学び系科目　リサーチ・コース」の充実を図り、体系的な教育で、探求心をもって問題を発見する能力を育成

KGI (5)　学修成果を適切に把握、評価し、学びの過程を振り返ることができる体制により「学生主体の教育」を実施

医学科
看護学科
医学研究科
看護学研究科

主要KPI

主要施策の完了率
100%

主要施策

- 成績評価・単位認定に関わるアセスメント・ポリシーを設定・公表
- 知識、技能、態度を含む評価を評価有用性に合わせて活用
- 外部の専門家を含め信頼性と妥当性を検証
- 目標とする学修成果に合わせた評価を実施
- 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修を促し教育進度を判定
- 教育到達目標達成度レーダーチャートとeポートフォリオを活用し、学修を促す形成的評価を実施

KGI (6)　教育カリキュラムを定量的、定期的に点検評価を行う体制により「教育課程の実効的な改善・向上」を実施

医学科
看護学科
医学研究科
看護学研究科

主要KPI

主要施策の完了率
100%

主要施策

- 教育カリキュラムの立案と検証に責任と権限を持つ委員会を定義
- カリキュラムの構成要素について教育課程の評価を実施
- 学生の進歩および学修成果について教育評価を行い、課題の特定と対応を実施
- 教員と学生から体系的にフィードバックを依頼
- 卒業生の実績から「意図した学修成果」「教育課程」「施設」の分析を行い、関係する委員会へフィードバック
- 評価の結果を教育課程に確実に反映

KGI (7)　ミッションと教育領域のビジョンを実現する研究活動の活性化を図るために、博士課程にアドバンストプログラムを設置

医学研究科

主要KPI

アドバンストプログラムの履修者数
15人
2026年4月開講

主要施策

- 研究推進あるいは研究運営、医療データサイエンスに従事する高度人材を育成するプログラムを設置する高度人材を育成するプログラムを設置
- 研究推進を行う高度人材の育成プログラムに、科目等履修制度を導入し、多様な社会人が履修しやすい環境を整備

教育GOAL　プロフェッショナリズムと協働力、探求心と問題解決力、自ら学ぶ力を修得する学修者主体の教育を実践

KGI (1)　学生が人間の尊厳を守る態度、多職種と連携する力、プロフェッショナリズムに基づく態度と責任を果たす力を卒業時に修得

看護学科

主要KPI

ディプロマポリシー ルーブリック評価	卒業時調査	卒業1年後調査（就職先）
75%	85%	15%
2026年度より実施	2024年度 84.1%	2024年度 15%

主要施策

- 多職種連携教育とプロフェッショナリズムの教育を体系的に設定し、シミュレーション教育を基盤において実施

KGI (2)　学生が看護の対象を理解し実践する力、人や社会と関係を築く力、科学的根拠に基づき看護実践を行うための知識と技能を卒業時に修得

看護学科

主要KPI

国家試験合格率（看護師）	卒業時調査
100%	85%
2024年度 98.8%	2024年度 85.7%

主要施策

- 人や社会、看護の対象と関わる教育を設定しシミュレーション教育を基盤において実施
- 科学的根拠に基づく看護実践に関する教育を設定し実施

KGI (3)　体系的、統合的な教育課程を通して、学生がリサーチマインドを培い、科学的に探究し表現する力を卒業時に修得

看護学科

主要KPI

卒業時調査	卒業論文の成績（平均点）
75%	70点
2024年度 73.8%	2026年度より実施

主要施策

- 看護学や関連する学問分野の動向や実践への還元に関する教育を設定し実施
- 看護現象を科学的に探究し表現することに関する教育を設定し実施

KGI (4)　アクティブ・ラーニングを取り入れた教育課程を通して、学生が自己を研鑽し続け、国際的な関心を持ち、自己を発展させる力を卒業時に修得

看護学科

主要KPI

eポートフォリオ記載率	海外研修の学生参加数	ディプロマポリシー ルーブリック評価
100%	20人	75%
2026年度より実施		2026年度より実施

主要施策

- シラバスに効果的な学修を行うために必要な事項を記載し、その内容と授業・実習内容の整合性があることを確認
- 学生の主体的参加を促すアクティブ・ラーニングの手法を講義・演習・実習に計画し実施
- 自己研鑽する意欲を支援し、自己の発展や国際的視野への関心を行動化できる環境を整備







研究GOAL　分野横断的研究と次世代人材育成を推進し、未来の医療を拓く革新的な研究成果の創出と社会への還元

KGI (2) 研究を支援する組織の再編、研究設備の整備を行い、成果につながる研究活動を行う環境を構築

医学　看護学

主要KPI

- 原著論文数 1,075件（2025年度 1,000件）
- 科研費申請数 280件（2025年度 213件）
- 治験実施収益 740百万円（2025年度 740百万円）
- 競争的研究費獲得額 777百万円（2025年度 702百万円）
- 共同利用研究施設利用実績 85件（2025年度 85件）

主要施策

- 研究支援に関する組織体を再編成し、実効的な運営が行われるように検証・改善
- URA（大学リサーチ・アドミニストレータ）制度が、実効性をもって機能するよう検証・改善
- 研究推進センター（研究監理センター（新設）に移行予定）の実績を検証し、効率的な運営が行われるように検証・改善
- 大学病院にて臨床研究支援センターの成果を検証し、実効性をもって機能するように改善
- 科研費申請の研究計画調書添削指導の体制が採択数の増加につながるように、改善
- 共同利用研究施設の整備方針を定め、研究を推進

KGI (3) 外部研究機関との連携体制を再編し、同時に、本学の研究成果を外部に明確に発信する体制を再編し、分野横断的な研究を推進

医学　看護学

主要KPI

- 共同研究契約数 71件（2025年度65件）
- 研究内容の技術シーズ公開状況 100%（2025年度未公開）

主要施策

- 研究支援組織の中で、産学連携を推進する組織を整備し、分野横断的な研究成果につながる運営が行われるように検証・改善
- 外部研究機関、産学連携を実施するための研究スペースを整備し、分野横断的な研究成果につながる運営が行われるように検証・改善
- プレスリリース、大学ホームページ等を活用した広報活動が、外部機関との分野横断的な研究につながるように検証・改善

KGI (5) 若手研究者、女性研究者を支援する体制を構築し、厚みのある次世代の高度人材を育成

医学　看護学

主要KPI

- 海外研究留学者数 10人（2025年度 5人）
- 女性研究者数 205人（2025年度 191人）
- 女性上位職の割合 20.0%（2025年度 12.3%）

主要施策

- 海外研究留学を促進する体制を整備
- 大学院（特別枠）を運用し、若手医師の研究活動の支援につながるように検証・改善
- ダイバーシティ推進センターの活動を継続し、厚みのある次世代の高度人材を創出できるような制度の運用ができるように検証・改善

KGI (9) 研究成果を社会へ還元する

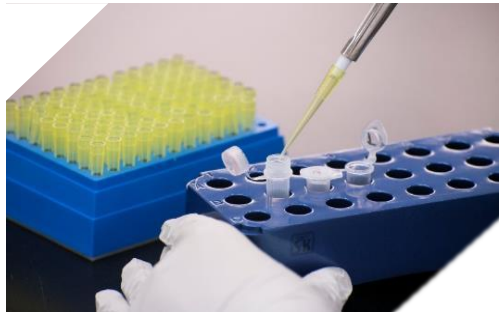
医学

主要KPI

- 特許のライセンス数 10人（2025年度 5人）
- 科目等履修制度の修了者数 15人（2027年4月より開講予定）

主要施策

- 産学連携が実効的に機能するように再整備
- 研究成果の社会実装に向けた取り組みを支援





診療GOAL　東京医科大学病院　高い倫理観と先進的な医療技術および患者安全に基づく医療の実現

KGI (2)　医療の質と患者安全の向上を図るため、診療体制・安全管理体制を継続的に強化

主要KPI

インシデント報告件数
9,000件
2024年度 12,285件

院内感染発生件数
340件
2024年度 358件

クリニカルパス適用率
64%
2025年度 59%

クリニカルパス総数
444件
2025年度 384件

主要施策

- インシデント報告を収集・分析し、再発防止策等を教職員ならびに各職場へ共有または周知
- 定期的（年2回）な医療安全研修を実施し、受講率から院内ルール等の周知状況を把握
- 多職種による業務連携・役割分担を推進
- 感染制御対策のモニタリングおよび強化
- クリニカルパスの適用率（年60%以上）をモニタリングしフィードバック。年1回以上のクリニカルパス大会を実施する他、推進委員会・拡大委員会合同会議の開催（年2回以上）やパス相談会を実施
- 医療機器の適正利用徹底と機器管理体制を構築

KGI (5)　医療の質の維持と経営効率の向上による、持続可能な病院運営

主要KPI

病床稼働率
89.9%
2025年度 88.2%

医薬品費、医療材料費削減目標額
160 百万円
2024年度 約301百万円

手術件数
12,700件
2024年度 12,316件

人件費率
30%
2025年度 29.8%

主要施策

- 曜日間の稼働の偏在を是正し、病床全体の病床稼働率の向上を図ることで、入院収入の安定的かつ効率的な確保
- 在院日数可視化によるモニタリング強化、適切なコントロールとパスの継続是正
- 手術による安定した収入の確保
- 手術機器、手術材料のムダ・ロスの削減、人員の適正配置とタスクシフト・シェアの推進
- 医薬品、医療材料支出の削減
- 人件費支出の削減
- 運営費補助金、寄付金、研究助成金等補助金の獲得

KGI (8)　卒後教育の質向上を図り、研修医の成長を支える体制を整えている

主要KPI

他県や離島で臨床研修を行った研修医延べ人数
41人
2024年度 24人

臨床研修医の学会参加者延べ人数
45人
2024年度 38人

主要施策

- 病院合同説明会で、より多くの来場者と接触し、魅力ある研修プログラムや優れた研修環境について、対外的に発信
- 本学医学科学生を対象とした臨床研修病院説明会の開催等を実施
- 臨床研修医のニーズや期待に訴求しうる連携先病院を開拓し、研修を促進することによって、魅力ある研修プログラムを有する臨床研修病院であることを発信
- 各診療科の卒後臨床研修運営委員への働きかけ
- 「指導医のための教育ワークショップ」の継続的な開催
- 各診療科の卒後臨床研修運営委員への働きかけ



診療GOAL　茨城医療センター

高い倫理観と先進的な医療技術および患者安全に基づく医療の実現

KGI (2)　医療の質と患者安全の向上を図るため、診療体制・安全管理体制を継続的に強化

主要KPI

インシデント報告件数
2,400件
2024年度 1,986件

TeamSTEPPS®研修継続開催回数
10回
2025年度より開始

QIデータ改善率
100%
2026年度より実施

医療関連感染サーベイランスの月毎実施率
84.5%
2024年度 82.8%

主要施策

- 医療安全教育を徹底し、全職員が医療安全講習会を受講して知識の向上
- TeamSTEPPS®研修を継続的に実施し、教職員間のコミュニケーション力（チームワーク力）、多職種連携強化によるチーム医療の実践力の向上
- QIデータを活用して改善策を策定し、継続的に医療の質改善活動を推進
- 手指衛生遵守率と実施回数を把握・評価し、改善活動を通じて感染予防を徹底することで、院内における感染リスクを低減
- 感染制御体制を強化し、院内サーベイランスを通じて院内感染防止

KGI (3)　病院機能による医療の強みを生かし、地域医療機関からの紹介体制を強化するとともに、後方支援体制を整備し、医療提供体制の充実

主要KPI

紹介率
90%
2024年度 82.3%

逆紹介率
80%
2024年度 91.7%

返書作成率
100%
2025年度 85.7%

返書送付平均日数
3日
2025年度 4.35日

主要施策

- 地域のクリニック、病院と定期的な情報交換会や合同勉強会を開催し、紹介しやすい体制の整備
- 紹介患者のフォローアップ体制を充実させ、継続的な連携の確保
- 救急応需体制の整備と人材確保を進め、救急隊や地域医療機関との連携・情報共有の促進を通じて、救急応需率の向上
- 医師事務作業補助者へのタスクシェアを進めるとともに、医師向け説明会で返書の重要性を周知。返書未送付を防止するため、アラート機能（システム化）を導入し、確実な返書提供体制の実現

KGI (5)　医療の質の維持と経営効率の向上による、持続可能な病院運営

主要KPI

病床稼働率
86.8%
2024年度 84.3%

応需率
90.0%
2024年度 67.4%

手術件数
3,640件
2024年度 3,678件

主要施策

- 効果的な入退院支援体制を整備し、入院収入の確保
- 救急応需強化に向けたより具体的な取組みについて検討する救急WGを設置
- 緊急入院患者の早期治療方針決定し、退院判断は前日までに確定
- 重症度、医療・看護必要度に応じた病床運用を最適化
- ベッドコントロール体制の強化により入退院管理を効率化
- 手術体制を強化して安定的な収入確保
- 医薬品・医療材料の適正管理と支出削減
- 人件費の適正化と業務効率化



診療GOAL　八王子医療センター

高い倫理観と先進的な医療技術および患者安全に基づく医療の実現

KGI (3)
病院機能による医療の強みを生かし、地域医療機関からの紹介体制を強化するとともに、後方支援体制を整備し、医療提供体制の充実

主要KPI

- 紹介率 **70%**　2024年度 72.9%
- 逆紹介率 **70%**　2024年度 82.2%
- 地域医療機関満足度 **80%**　2025年度より実施
- 救急・連携経由応需率 **70%**　2025年度より集計

主要施策

- 近隣施設が頼りたくなるような病院への推進を図り、密接な顔の見える関係を構築
- 地域からの信頼度と連携体制の実効性を踏まえ、現場の実態に即した改善による受け入れ体制の見直しとモニタリングにより継続的な評価を行い、地域医療への貢献を分析、可視化
- 近隣医療機関との密接な関係を構築し、積極的、継続的な交流と信頼関係の強化
- 災害時の「最後の砦」としての役割を担うと同時に、地域の医療・行政・住民と連携するハブにもなるスキームを構築

KGI (5)
医療の質の維持と経営効率の向上による、持続可能な病院運営

主要KPI

- 病床稼働率 **87.2%**　2024年度 83.1%
- 医薬品費 **医療収入の26%**　2024年度 25.91%
- 手術件数(全麻) **3,500件**　2024年度 3,114件
- 人件費率 **74.8%**　2024年度 85.7%

主要施策

- 地域のクリニック、病院と定期的な情報交換会や経営効率・医療提供体制の最適化を目指した病床稼働率の目標を達成
- 全身麻酔手術件数の増加と高単価手術実施の戦略的な立案
- 医薬品費、医療材料費の臨床的有効性・経済性・安全性に考慮した適正使用体制の構築
- 組織運営のバランスを踏まえ業務内容・人材の質・コストの最適化を踏まえた人員適正配置、雇用形態改善による効率化
- 通常に行う固定費の見直し、変動費の削減、人件費の最適化、IT・システムコストの見直し及び廃棄・ロスの削減

KGI (6)
南多摩医療圏における安全・最新の医療を提供
（病院再整備を見据えた財政基盤を強化）

主要KPI

- スケジュールに即した進捗度 **100%**
- 特定資産積立額（減価償却引当特定資産） **5億円**　2024年度 約6.7億円
- 再整備関係補助金獲得率（取得額/申請額） **100%**

主要施策

- 新棟建設による安全・最新の医療を提供する施設環境を整備
- 実施設計にあたり、先端医療の継続性を担保できる将来を見据えた施設環境を予算の中で実現できるように検討
- 建設スケジュールを明確に管理できる体制を構築
- 建設計画を完遂できるように竣工までの自己資金を積み立て
- 自治体などの施設設備整備にかかる補助金の獲得



管理運営GOAL　ガバナンス体制と財務基盤のさらなる強化と社会の変化に柔軟に対応できる組織の確立

KGI (3)　法人および大学の運営に必要な組織体制を整備し、適切な人材を配置した上で、機能する体制を確立

主要KPI

有給休暇取得率
70%

男性労働者の育児休業等取得率
85%
2024年度 40%

主要施策

- 組織体制の整備と適切な人員配置のための分析
- 異動希望調査や地域限定職員制度を実施
- 経験者採用の実施や専門的な知識および技能を有する職員の育成、配置
- 職員の採用、昇格等の人事および業務評価やそれに基づく処遇改善



高大連携プログラムの様子



KGI (4)　大学運営の定期的な点検・評価を活用して改善に取り組み、改善内容を適切に周知

主要KPI

自己点検・評価報告書チェックシートのA評価割合
85%
2026年度より実施

主要施策

- 「内部質保証システム」に基づく、内部質保証スケジュールに従い「自己点検・評価報告書」を作成し、その検証を行い、PDCAサイクルを適切に機能させ、恒常的、継続的に質の向上を推進
- リスクマネジメントによる監査テーマの洗い出しシステムの構築

KGI (5)　中・長期の財政計画を策定し、安定した教育研究活動の財政基盤を確立

主要KPI

私立大学等経常費補助金
25億円
2024年度 20.3億円

主要施策

- 持続可能な財政基盤の確保に資する中・長期の財政計画を策定
- 中・長期の財政計画を策定し、大学の運営に活用
- 収入源の多様化を進め、学外からの資金を積極的に導入

KGI (6)　社会との連携を深め、地域や社会の課題解決に貢献

主要KPI

市民公開講座実施率
100%

高大連携プログラム実施率
100%

主要施策

- 社会連携・社会貢献の方針に基づき、地域・社会と連携し知見を還元する取組を推進
- 地域や社会の課題解決に貢献し、大学の社会的意義を向上
- 社会連携・貢献活動を定期的に点検・評価し、課題を把握

KGI (7)　全学的な観点から統括的に検討・策定された各施設の施設整備計画を着実に実施

主要KPI

各種工事の進捗率
100%

主要施策

- 共同ビル（仮称）建設工事計画を策定・実施
- 教育研究棟（自主自学館）の改修工事計画を策定・実施
- 健診予防医学センターの整備
- 敷地（学生寮・職員住宅など）の有効利用の検討
- 既存インフラの老朽化対策
- 環境負荷の低減や省エネルギー化
- 大学の財政計画に則した適切な施設整備の実施を支援